

## 「教育活動支援チーム」の今後の派遣計画について

平成23年6月6日  
京都府教育員会

「教育活動支援チーム」派遣について、下記のとおり活動地域を変更することとし、引き続き現地のニーズを的確に踏まえ、刻々と変化する状況に柔軟に対応しながら、派遣を継続します。

### 記

#### これまでの活動状況

- ◆ 教員やスクールカウンセラーで構成する「教育活動支援チーム」を本年4月21日から現在活動中の第7陣までに50名を派遣
- ◆ 福島第一原発事故の影響から町全体が会津若松市に避難している大熊町や各被災地から数十人の児童生徒を受け入れている会津坂下町、猪苗代町の学校等において、学習支援やカウンセリングなど多岐にわたる支援を実施
  - ▷ 転学等による学習の遅れに対する学習相談、学習支援(TTによる授業支援等)
  - ▷ 特別支援学級での指導、指導補助
  - ▷ 避難者居住地域での学習会や避難所での放課後補習及び休日学習会の実施
  - ▷ 学校及び避難所でのカウンセリング(平日昼間の保護者等への面接含む)
  - ▷ 児童生徒の異動状況の把握及び名簿のデータ化作業の補助

#### 現時点の現地の状況

(福島県会津教育事務所から聴取)

- ◆ 大熊町、会津坂下町、猪苗代町の各学校では授業も正常化しつつあり、児童生徒の状況も落ち着きを取り戻してきている。
- ◆ 特別支援員が不足していた大熊町の小学校に福島県教委が支援員を配置予定
- ◆ 福島県として、京都府支援チームのこれまでのきめ細やかな活動に感謝している。

(福島県相双教育事務所から聴取)

- ◇ 津波被害や原発による避難者の多い浜通りの新地町の小・中学校では学校再開の遅れによる学習相談、学習支援が必要、特に児童生徒、教職員の心のケアが必要
- ◇ 相馬高校、相馬東高校のサテライト教室では、500名程度の生徒が受講しているため人的な支援が必要

#### 今後の派遣計画

- 被災地での学校教育活動の円滑な実施に向けた支援を行うという、所期の目的が一定達成された大熊町等については、現在派遣中の第7陣をもって終了する。
- 今後は、より支援ニーズの高い、新地町、相馬市の小・中学校や県立高等学校のサテライト協力校での支援活動を6月中旬から実施予定  
(支援内容)
  - ▷ 小・中学校、避難所での学習相談、学習補助、心のケア、特別支援
  - ▷ 高等学校への支援(サテライト受講生への学習相談、学習補助、心のケア等)

**相馬市、新地町の学校数**

- ◇ 相馬市 小学校10校、中学校5校、県立高校2校、県立支援学校1校
- ◇ 新地町 小学校3校、中学校1校、県立高校1校

**学校・公民館等の位置**

**相馬地方**

**双葉地方**

○	小学校
●	中学校
○	県立学校
▲	公民館

